

第6回 <市民が「自主性」「自発性」をもって市の課題に関わり合うためには>

課題の情報共有をする

- ・課題を市民レベルにわかるように説明する
- ・市の解決を知るための情報が届いていない、市行政の動きがわからない（情報受信）課題をどのように周知させるか（情報発信）
- ・課題と解決されたときの将来像を共有
- ・行政と市民とで、市の課題の協議と情報共有

地域を知る

- ・地域を知ること 校区と地区が違うことは情報交換ができるメリット
- ・他の町内会・地域を知り、比較すると問題に気づく

行政との関わり方

- ・市議会傍聴、市のホームページを見る
- ・出前講座への参加
- ・市の窓口を知る、行政と関わる、市役所に来る機会が増えると協働が増える

市の課題がわからない

- ・市民が市の課題が何かを知らない
- ・市の課題への関わり方が分からない

課題を共有して話し合う

- ・まちの課題と強く向き合い全員で共有する必要がある
- ・一人一人の課題が異なる。一人よりも同じ問題意識を持つ人をグループ化して話し合う
- ・課題の共有がないと解決する気持ちがわからない
- ・市民、行政など関わる人それぞれに何らかの利益があると、やる気が出る
- ・行政が課題を決めるのではなく話し合いの中で課題を発見・共有

話し合いの場

- ・多くの人の話し合いをしないとわからない
- ・多数の人に関わりやすい機会。
- ・継続性のある話し合いが必要
- ・大変度を理解するために市民と行政が話し合う

行事参加のきっかけ、方法

- ・市行事参加からの参加者の楽しかったという口コミ
- ・気づいた人が一人でも多く巻き込む
- ・無作為抽出

町内会外の関わり方

- ・地区内だけでなく、公民館間や地域を越えて交流を行う
- ・青年団、壮年団、高齢者、PTA と子供、高校生も関わる。小学生と高齢者との朝食会等
- ・町内会全体だけでなく、班単位の親睦を図る

課題の捉え方

課題を自分のこととして捉える

- ・誰にとっての課題かを探す
- ・市の課題は地域（市民）の課題。他人ごとではなく自分のことのように思う
- ・互助の精神で高齢者問題を私たちの問題に思う
- ・自助、共助、互助、公助 自主防災一福祉 やっていることは同じ

市民の役割

身近なことから取り組む

- ・課題に対してどこまでできるか。個人の「できる範囲」を集めると解決につながる
- ・町内会・近所の身のまわりからわかる範囲で身近な問題に関わり町内会から市に関心
- ・身近な課題を把握する
- ・興味のある課題に取り組む
- ・市の課題が市民にとって身近であると思ってもらうための工夫

町内会の課題

- ・町内会を抜きにまちづくりを語る事はできない 町内会が窓口
- ・行政・町会役員など誠意・熱意・責任感をもったリーダーの育成が必要 ⇄ 言い出しっぺ
- ・町内会の参加者の世代交代の仕組み
- ・目町内会の役員の動きが悪いので町内会での目標設定により結束
- ・町内会に参加していない現状、自主的参加のきっかけとして魅力的な活動や町内会

活動の仕方

町内会参加のきっかけ

- ・飲みニケーション
- ・会合を楽しめる工夫、近所の人と知り合う機会を作ってPRすることで、楽しめる
- ・ゆるい役割分担
- ・町内会や町内行事への参加者への配慮

解決には

どうするか

人を集める

情報共有

参加させる

参加のきっかけ

まちづくりには町内会が必要

町内活動に参加するには

市民と行政